

特別講演 1

「免疫性神経疾患の新しい治療法について」

福井赤十字病院神経内科 副部長

早瀬 史子 先生

脳・脊髄・末梢神経・神経筋接合部に対する自己免疫を介する疾患の事を「免疫性神経疾患」と呼び、多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎（CIDP）などが含まれる。

治療面では従来用いられてきたステロイド治療や免疫抑制剤に加えて、特定分子を標的としたモノクローナル抗体製剤などが高い有効性を示すことが証明され、臨床応用されるようになった。疾患の再発と障害進行を抑制し、長期予後を改善するとともに患者の生活の質（Quality of Life）を維持・向上させるため、発症後できるだけ早期に診断し、適切な治療を開始することが望まれる。同時にステロイドの長期使用に伴う合併症も無視できない問題となっており、ステロイドと新規治療薬との併用や切り替えなどの問題も個々に考慮していく必要がある。現時点における当院での免疫性神経疾患の治療方針について紹介する。